

## WG 活動紹介(I)

### High Priority Request List グループ

原研核データセンター

深堀 智生

fukahori@ndc.tokai.jaeri.go.jp

#### 1. はじめに

NEA/NSC/WPEC では毎年 High Priority Request List (HPRL) を作成している。これは、IAEA で編集していた旧 WRENDA に近い性格のものであるが、近年の世界的な実験施設の閉鎖に伴う装置及び人的資源の減少に対して、現存施設などの有効活用のため、優先度の高い核データの測定を推奨するためのものである。これに対応して、参加各国にはリスト作成の要求が 1996 年頃から行われてきた。このため、日本からの要求として、公式にリストを作成すべきであるとの観点から、シグマ委員会の常置グループとして HPRL グループを結成することを提案し、運営委員会の承認を経て、1998 年度末よりシグマ委員会の常置グループとして活動を開始した。

メンバー（敬称略、10 名、\*は WG リーダー）は、以下の方々である。

深堀智生\*（原研）、馬場護（東北大）、井頭政之（東工大）、川合将義（KEK）、平山英夫（KEK）、真木紘一（日立）、山野直樹（住友原子力）、高野秀樹（原研）、水本元治（原研、2003 年から）、片倉純一（原研）、池田裕二郎（原研、2002 年まで）、喜多尾憲助（データ工学、2002 年まで）、佐々木誠（三菱重工、2002 年まで）

HPRL に関する分野別の主担当は、以下のようになっている。

- 核データ測定（リスト中の測定の難易度検証等）：井頭、馬場
- 核分裂炉用核データ：高野
- 核融合炉用核データ：真木
- 高エネルギー核データ：水本、川合、高野、平山
- 遮蔽用核データ：山野
- 崩壊熱及び核種生成量評価：片倉
- 医療用核データ：現在担当者無し（深堀がwatchしている）
- 核データ評価一般、その他の利用、取りまとめ：深堀

以下、本グループの活動内容、現在までの活動成果などについて概説する。

## 2. 活動内容及び現在までの成果

### 2.1 HPRL 改訂作業

- 日本からのHPRL作成のため、改訂作業を毎年1回行っている。
- 2003年の会合では、冗長になったHPRL改訂の指針として、要求が満たされたもの (satisfied list)、要検討なものを区別し、元々のものからこれらを除いた残り合わせて3つのリストに再編成した。これをWPEC会合に提案した。

以上の改訂結果は、英文でまとめ、NEA/NSC/WPEC 会合で報告している。また、WPEC では、日本の提案を受けて、今後の HPRL のあり方やまとめ方を検討するために日本、米国、欧州、ロシア代表の少人数で、2003年10月9～10日にパリのNEA本部において会合を開催する予定である。

### 2.2 WWW ページ作成

国内の核データ（測定）要求をできるだけ広く集約するため、国内から公募することとし、新規要求受付のためのWWWページ (<http://wwwndc.tokai.jaeri.go.jp/hprl/index.html>) を作成した。WWW ページ作成の基本方針としては、

- 登録された要求を時間差無しに検討できるようにするため、登録データは電子メールでグループメンバーに自動配信されるようにした。
- 登録ページの項目で書きづらい要求者（項目にうまく合わないか、大量に要求のある場合）のために、直接メンバーに電子メールを打てるようにする。
- 「High Priority Request List (HPRL)」(.pdf版) 及びHPRLグループの議論の結果をダウンロードできる。

である。内容は、HPRL グループで検討し、適宜修正を加える。

## 3. おわりに

日本から提出された HPRL 改訂要請は、NEA/NSC/WPEC の HPRL 検討グループ (SG-C) によって検討され、次期の HPRL に反映される。測定者はできるだけこれを参考にして、実験計画を考えていただけるようお願いしたい。

予算不足による各種実験施設の閉鎖に伴う核データ測定量の不足は、残念ながら世界の実状であろうが、核データの精度を向上するためには、実験が不可欠であることは改めて言及するまでもないことと思う。このため、優先度が高く、普遍性のある測定に集中して現有の施設を効率よく運営していくことが重要である。このための HPRL であることをご承知いただいて、積極的に要望を提出していただきたい。これは、施設の必要性を当局に訴えることにもつながる。皆様のご支援をお願いしたい。